

2024年度1月講座 感想まとめ

<講師の言葉>

津田隆広さん

「知的特別支援学校における肢体不自由生徒に対する自立活動の取り組み
～非常勤講師や外部支援機関との連携と卒業後の支援体制を見据えて～」

1月講座にご参加いただいた皆様、本日はありがとうございました。今回の発表は1時間というこれまで行ってきただの発表よりも時間は短かったです。自分が日々積み重ねてきた取り組みだったので、これまでのどの発表よりも思いを込めてお伝えができたと感じます。発表の取り組みの成果はこれまでにないほどの素晴らしいものでした。だからこそこんなにもうまくいってしまっているのだろうかという戸惑いもありますが、何よりもYさん自身が本当に努力してくれたこと。そして、Yさんことを支援する多くの方々のおかげで今回のことが成し遂げられたものと思っています。しかし、彼はこれからが本当の勝負です。来年さらに身につけなければならないこと。卒業後もこの取り組みがなくなる支援体制の構築など、考えなければならないことはまだまだあります。これからもYさんの成長を見守りつつ、彼に何が必要なかを常に考えていければと思います。先生方、学生の皆様にとっても残り3か月勝負であると思います。お体にお気をつけて、一步一步共に進み続けましょう。

宮崎先生の話では、今回の話を聞いてブレイクアウトルームで話し合った時に中谷先生が述べられていたYouTube先生の内容にとっても共感しました。スマホはとても便利なものです。遠くにいても同じ趣味や好きな物を追いかける仲間とすぐにつながることができます。本日の講座の形もICTの進化があったからの出会いです。けれども逆に自分の興味のないものに触れる機会も以前の社会よりも極端に少なくなってしまったのではないのでしょうか。同じニュースを家族で見たり話し合ったり、共通の社会の話題について自分とは違う年齢層などの意見を聞くこともほとんどなくなってしまったのではないのでしょうか。

YouTubeで自分の意見に近い動画しか見ないので、考えが変化することもなく自分とは違う意見を排他する傾向も強くなっていると思います。今回宮崎先生が話して下さった内容をより多くの教員と

共有し、話し合い子どもたちと共に平和を守っていくのか。真剣に考えるきっかけをいただけたと思います。本日はありがとうございました。

宮崎令子さん「はだしのゲン」削除問題と平和教育

私の今回の報告は、自分の授業実践ではありませんでしたが、皆さんに関心を持って聞いていただき、良かったです。作者の中沢啓治さんとお会いした体験も含め、私にとっても『はだしのゲン』の持つ意味は大きく、削除の件は新聞でも大きく取り上げられたので知られていると思いましたが、その後の動きや背景はあまり知られていず、気になっていました。私もいろいろな方の力を借りて調べたりまとめたりしましたが、情報を共有した皆さんが、共感して発言したり感想文を書いたりして下さったのが嬉しかったです。第5福竜丸含め「広島平和ノート」改変の意味するものを、更に広く深く拡散して頂きたい

です。今後平和教育を創造していくということも、更に厳しくなっていくと思います。授業づくり講座に参加されている皆さんが、老若男女問わず、これからも平和教育や関連した活動に取り組み、連帯を強めて行けると良いな、と考えています。

津田さんの報告からは、津田さんの真摯な姿勢と熱意が伝わってきて、感動しました。A君の実態をよく分析し、本人に寄り添って食生活の改善や運動を根気強く進めていき、体重減や歩行という目に見える変化が表れたというのが素晴らしいです。A君は津田さんに巡り合えて幸せですね。家庭環境の改善や本人の意志力と努力の継続がこれからも大変困難だと思いますが、今後も頑張ってもらいたいですね。私も学ばせて頂きました。

授業づくり講座は、とても貴重な学びの場です。実行委員や参加者のみなさんのがんばりに今後も期待しています。どうもありがとうございました。

<参加者より>

津田さんの報告について…いつもながら津田さんは勉強家ですね。「階段昇降で前から降りる時と、後ろから降りる時の使う筋力の違い」など知っていてすごいなと思ったら、最後の参考文献に載っていたので、さすがだと思いました。ただ、これはいつも言うことで恐縮ですが、報告の中で「発達年齢が1歳2か月なので、国語は身体づくりに当てている…」旨のお話があったように記憶しています。でも、高校2年生としての生活年齢も重視した国語の授業、そして「社会認識を育てる社会科の授業」も大切にしていきたいなと思いました（実践されていたらごめんなさい）。

宮崎さんの報告について…自分が「中高生学生平和交流会」で、このテーマで学習会をする予定なので、DVD版があることや「クロ現」での報道などがあることがわかり、とても参考になりました。分科会でも述べたのですが、この動きが単に広島だけではなく、日本全体を「戦争のできる国」にするための動きの一環ととらえられることも知りました。ただ一つ、本題からはそれるので聞けなかったのですが、最後の4「平和教育の創造を！」の(2)の和井田さんの報告で「どちらもどっちという価値相対化に抗いたいと…」という点、宮崎さんのお考えではないのかもしれませんが、どういうことかお話を伺いたかったです。

最後に、最近ブレイクアウトルームを使ったグループ討論が入ったことは学生さんも発言しやすくなって、とても良いと思います。ただ欲を言えばせっかく入れたのだから、最低でも30分は欲しいなと思いました。今日も5人のグループでしたが、一通り意見を言って終わってしまう感じだった

ので、他の人の意見を聞いて、さらにそれを深めたりしたかったです。いずれにしても、実行委員の皆さん、お忙しい中、司会や報告などしていただき、ありがとうございます。

(元特別支援学校教員・Tさん)

<津田さんの報告>

津田さんの2年にわたるAくんへの「からだ」の取り組みが丁寧ですばらしいと思いました。知的特別支援学校で、ここまで個別対応できるのは生徒8に対し教員4という比較的手厚い体制と、津田先生と担任団の共通理解がしっかりあるからだと思います。

「からだ」の取り組みと併行して食事（主に給食）指導の大切さに注目し、重点的に指導をつづけたことも津田さんの実践のすぐれた点だと思います。

給食中にAくんに丁寧に個別指導。指導中、細かくコミュニケーションをとっていることが報告されていました。このことは大変重要だと思います。Aくんの現在の摂食の力を、実態をみて分析し、さらに食べ方の改善をしていくといいと思いました。

進路については肢体不自由の方にも対応している通所施設を視野に入れて考えていってはいかがでしょうか。

<宮崎さんの報告>

広島の副教材の問題は、早く広く、全国の平和教育を大事に考えている教員たちに広めることが大事だと思います。

歴教協での平和教育の実践の現状の紹介 社会科授業づくりに参加する皆さんにより参考になると思いました。（特別支援学校教員・Tさん）

津田先生の報告では、子どもが大いに成長していく姿が見られ、感動しました。「津田先生の支援があったことで、この子の人生が変わったね」という感想を述べた方がいらっしやいましたが、本当にその通りだと思いました。津田先生の熱意と行動力、そして子どもたち一人ひとりに寄り添うきめ細やかな支援に脱帽しております。

宮崎先生の報告では、行政によって、教材の内容が削除されたり、教科書や資料の文言が変更されたりして、戦争を軽い物にしている動きがあることを改めて学びました。その動きと相まって、戦争を実際に経験した方々が亡くなっていっている現状もあります。そのような中、どのように戦争の悲惨さを子どもたちに身近に感じさせるかが、我々世代の社会科教師の課題になると思います。戦争で傷ついた方々が経験したこと、語ったことを教師が子どもたちにつなげていけるような環境づくりが重要であり、その環境の一つが授業づくり講座であることを実感しました。

今回の授業づくり講座で大変勉強になりました。改めてお礼申し上げます。また津田先生、宮崎先生に学ばせていただきたく存じます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（学生・Oさん）

私は学生という立場からこの講座を聞き、子どもの将来を視野に入れた教育がいかに重要かを実感させられました。子供が学校にいる短い期間の中で、卒業後一人で生活していけるのか、またどういう考えを持つ大人になってほしいのかを軸にして学習指導案を考える必要があることに気づかされました。平和教育の部分では、大学の授業でも学んでおり、共通する部分が多く大変興味深い内容でした。予定があったため感想を共有できなかったことが残念ですが、またの機会がありましたらよろしくお願い致します。（学生・Iさん）

社会科授業づくりの講座に出席させて頂きありがとうございました。普段同年代の学生との交流しかない中で、実際に現場に出てらっしゃる教師の方々の日頃の取り組みや熱意を感じられ、普段の授業の枠組みを超えてとても良い経験になりました。

また、私が将来教師になったらどのような工夫で生徒に真摯に向き合うべきなのかというのを改めて再認識させて頂きました。

また機会があったらよろしく願いいたします。（学生・Sさん）

先日は授業づくり講座に参加させていただき、ありがとうございました。実際に現場で働いているみなさんのお話を聞くことのできる、大変貴重な機会でした。毛呂山特別支援学校の教員でいらっしゃる津田先生のお話を聞いて、その場所でどれだけ「個」に特化した教育、支援が行われているのかを実感し、さらに生徒本人の得意不得意、嫌がることなどを教員が把握しているというその体制にただただ「すごいな」と感じました。子どもたちが学校という場所で信頼できる大人に出会い、そこを「安心できる場所」と感じられることはとても尊いことであり、そしてその権利を持っているのだと思います。その権利が特別支援学校ではどのように守られているのか、それを守るために先生方がどのようなアプローチを日々なされているのかを知ることができ、非常に有意義な学びになりました。ありがとうございました。（学生・Nさん）

津田さんの報告では、特別支援学校での生活や自立活動について知ることができました。生活機能分類という言葉をはじめて聞きましたが、生徒の現状を「生命レベル」「生活レベル」「社会レベル」「環境」「個人因子」で把握することで課題やアプローチ方法を見出す方法は大変わかりやすかったです。食事や運動に至るまで、個々に合わせた計画を作り実践し、データを示して結果を分析している実践報告で大変勉強になりました。

宮崎さんの報告では、はだしのゲン削除の問題ばかりでなく、新たに変更された資料の問題点もよく分かりました。平和ノートの新たな資料にある「許す心をもちなさい」といった文や、広島平和記念公園とパールハーバー国立記念公園との姉妹公園協定など、一見良さそうに思えることの中に戦争の悲惨さや加害の歴史をごまかそう無くそうとする意図が隠れていることも知り、だまされないようにするためには学び続けることが本当に大切だと感じました。広島の教員がはだしのゲンのもつ教材としての価値を実感しているにも関わらず、政治の問題で外されてしまったことに恐ろしさと怒りを感じました。それでも、工夫しながら授業に生かしている先生や、様々な平和・人権の実践をされている先生方を紹介していただき、自分もしたたかに、周りの先生たちとつながって頑張ろうと思いました。

これからの自分の授業づくりに生かしていきたいと思います。企画運営等、ありがとうございました。（小学校教員・Yさん）

特別支援学校での実践のお話は、大学でも中々聞くことができない事例だったので、大変勉強になりました。一人一人の良さや課題に向き合い、その子を支える大人の一人として試行錯誤していく様子が印象的でした。このような実践にたどり着くまでの苦労や、これを継続していくことの大変さも痛感しました。特別支援に限らず、一人一人と向きあう指導はどの校種においても重要な点だと思います。しかし、中々実現していくことは難しいなと思いました。

『はだしのゲン』の実践のお話に関して、戦争がテーマの教材を用いた授業というのはとても大切な実践の一つだと思います。戦争経験のない世代がほとんどである現在において、そうした資料は、当時を経験した方々の思いを後世に残せる重要なものです。今後の歴史教育において、こうした題材をいかに有効活用していけるかを考える必要性を実感しました。（学生・Gさん）

今回の授業づくり講座では、津田さんと宮崎さんの報告を聞かせていただきましたが、津田さんの報告は、特別支援学校の生徒の成長といった普段の大学の講義では聞くことが出来ない貴重なお話でありました。主に食事に関しては、体重のようなデータで見れば少しの変化であるが、生徒の給食に対するアプローチの変化は生徒自身と教師陣が導いた成長であるのだろうと感じました。また、後半の討論会では、平和教育に関して、教える生徒の発達段階にどこまで合わせて行うべきなのか難しい問題であると感じました。（学生・Sさん）

津田先生の報告であった、食事や体重の管理などは、通常学級ではあまり焦点を当てないことでしたが、学習の基盤となることであり、とても重要なことだと思います。また、特別支援教育は、当然ですが介護をする場ではなく、その子に必要な支援をする場であることを改めて認識しました。その子に何ができて、何ができないのか、何をできるようになる必要があり、何はできなくても大丈夫なのか、それを考えて支援や取り組みを行っていくことは、通常学級でも同じことで、大切にしなければならない意識だと感じました。

宮崎先生からの報告からは、平和教育の格差に対する懸念を感じました。優れた実践をされている先生方がいる一方で、自分も含めてそうではない先生も多くいると思います。最低限の時間が保証されにくく、内容についても制限が加わりつつある中で、どのように平和教育をしていくのか、模索していくことの必要性を感じました。（小学校教員・Mさん）

<講座全体について司会者より>

今年度最後の講座は、特別支援学校における実践報告と、はだしのゲンを通して平和教育の在り方について考える場となりました。オンラインでの講座となりましたが、現職の教員から学生まで、多くの方に参加していただきました。

特に、最近では「特別支援学校」での様子や取り組みについての報告や実践紹介を定期的に行っており、今回も、普段はなかなか関りを持つことができない方とも意見の交流をすることができました。

また、私自身もそうですが、ブレイクアウトルームで少人数の中で自分の考えを話したり、他の方の意見を聞いたりすることで、自分の考え方や価値観に気づいたりはっきりしたりするようなこともありました。

講師を務めていただいている先生方から学ぶことはもちろんですが、他の参加者の方からも学ぶことがたくさんあり、今回も素晴らしい講座になったと思います。